アブラムシ科（蚜虫科）*Aphididae*

アブラムシ類は體の小さい昆虫で、アリマキとも云はれる。觸角は普通6節より成る。腹部の脊面には一對の突出物（角狀管）がある。此突出物は種類により種々なる形態を有するが、圓柱形を呈することが多く、又極めて短くして明に見られぬこともあり、又全く缺除して居ることもある。腹部の末端には一本の突起があることが多い。此突起は尾片と云はれ、種類によつて形に差異がある。肢は細く、跗節は殆んど常に2節より成り、その基部の1節は甚だ短く、先端の節の末端には2本の爪がある。翅は透明なることが多く、脈は少い。前翅には斜に後縁に向つて走る3本の脈があり、その中最も先端部に在るものは第三斜脈と云はれる。

蚜虫類の生活狀態は他の昆虫と大に異つて居る。温帶地方では普通卵の狀態で越冬し、春季孵化せるものは全て雌となり、その子孫も春季夏季の間は全て雌のみで、單性で胎生を續ける。秋季になると雄と卵生する雌とが現はれて、交尾産卵し、その卵

が越冬することは前述の通りである。然し臺灣その他の熱帶及亜熱帶地方に於ては、秋冬になつても雄と卵生雌とが全く現はれず、一年中胎生する雌のみが生れて、代々單性生殖で胎生のみを続け、卵の産下されることは全くない。從て本島にては周年發生する。胎生雌には翅を有するものと、之を缺くものとがあり(同一種に於て)、有翅形は飛行して他の植物へ移動することが出來る。蚜虫類は體が小く、前述の通り單性で胎生するので、成長が早く、蕃殖が速である。夏季に於ては産下された仔は約一週間で親となり、生殖を始める。周年之の如き生殖を續けるので、一箇年に經過する世代の數は甚だ多い。又1匹の蚜虫も短時日の間に大蕃殖をすることが出來る。

蚜虫類は主として軟い若葉及若芽等に群集寄生し、從つて果樹が新芽を出す時季は蚜虫の蕃殖に最も適する時期で大蕃殖をすることが多い。

此等の昆虫の一部はその食草が一定して居るが、一部のものは甚雜食性で多數の雜多の植物に寄生加害する。例へばミカンノアブラムシ Aphis citricidus Kirkaldy は柑橘以

外の植物には發見されないが、バショウノアブラムシ *Pentalonia nigronervosa* Coquillette はバショウの他にゲットウにも寄生し、又ワタノアブラムシ *Aphis gossypii* Glover の如きは實に雑多な植物に加害する。モモコフキアブラムシ *Hyalopterus arundinis* Fabricius はモモ、スモモ及ヨシに寄生し、モモノオホコブアブラムシ *Myzus varians* Davidson はモモとセンニンサウとに生活し、クワヰクビレアブラムシ *Rhopalosiphum nymphaeae* Linne はスモモと種々なる水草(クワヰ、ハス等)とを害する。從つて驅除を計るには栽培植物のみならず他の全の食草をも考慮に入れる要がある。

蚜虫類は種類が甚多く、本島には現在200種以上が知られて居る。その中果樹に寄生するものは約20種である。蚜虫類は前述の通り好んで軟い葉に寄生する。從つて一般に固い葉を有する熱帯果樹は蚜虫の加害を受けることが少いが、落葉性の軟い葉を持つて居る果樹はその加害を被ることが多い。

蚜虫類は甚だ重要な害虫で、次の如き害を植物に加へる。

(1) 主として新芽若葉に群集寄生して、

口吻を植物體に挿入して液を吸收し、植物を衰へしめる。葉及枝を全く枯死せしめ、加害の大なる時は植物全體を枯死せしめることがある。

(2) 葉及枝を萎縮せしめ或は捲縮せしめ、又は虫癭(瘤)を作ることがある。

(3) 肛門より液狀の排泄物を出し、此排泄物(糞)は植物體に附着して、黒色の煤病を發生せしめ、植物の外觀を損じ又その生理作用を阻害する。

(4) 植物のモザイク病の病原體を傳播することが多い。

(5) 人體に觸れる時は口吻にて皮膚を刺し、發疹させるものがある(ウラジロエゴノキに虫癭を作る種類は之に屬する)。

蚜虫類は旣に説明した通り、速に大蕃殖をすることが出來るが、その體は小くして、運動力少く、弱い昆虫であるから、雨のために押し流され或は雨滴に沒入して溺死し、又は暴風に吹き飛されて死することが多く、又他の敵生物のために食ひ殺される。本島に於ける主要な敵虫はテントウムシ類、寄生蜂、ヒラタアブの幼虫、クサカゲロウの幼虫等で、本文に説明する種類の殆んど全

部は此等の敵虫に殺される。又寄生菌に殺されることも多い。寄生蜂に寄生される時は、體は膨大して殆んど球状となり黒褐色を呈するに至るので、容易に認めることが出來る。

此等の敵虫は元より保護すべきであるが、人工で蕃殖を計ることは容易に行ひ難いことである。然し有益敵虫を外國より輸入して蚜虫の驅除を計ることは内外で行はれて居る。

蚜虫類は多量の液狀の糞を排泄するが、その糞は甘味を持つて居るので蟻はその糞を求めて蚜虫を訪問し、此を保護することがある。

驅除豫防法 (1) 魚藤液、除虫菊石鹼液、石油乳劑、除虫菊加用石油乳劑、或はニコチン石鹼液等を撒布すること。魚藤は甚だ有效で、本島にては容易に入手し得るので便利である。

藥劑は約一週間を經て2回以上撒布すると一層有效である。既に記述した通り、此昆虫は短日月に大蕃殖をするので驅除を行つても1匹生き殘れば再び忽ち蕃殖するに至るから、生き殘るものの無い様に注意す

ることを要する。
(2) 蚜虫は主として新芽の多い時季に大蕃殖をする。従て新芽新葉の少い時季に此等に寄生して居るものを駆除して、大蕃殖を防止すべきである。
(3) 蚜虫の寄生せるために、捲き或は縮める葉は取り除くを可とする。
(4) 蚜虫の大部分は既に説明せる如く、果樹のみならず他の種々なる植物にも寄生する。従て果樹に寄生せるものを駆除する際は、他の植物に寄生するものをも駆除すべきである。前述の通り、モモノコフキアブラムシはヨシに寄生し、スモモに加害するクワヰクビレアブラムシは種々なる水草にも寄生し、又モモノオホコブアブラムシは桃のみならずセンニンサウにも生活する。従て此等の蚜虫を駆除するには、夫々ヨシ、水草、或はセンニンサウ等を取り除くべきである。又スモモは水邊に栽培するは不適當である。以下記述する各種の説明によつて、その食性を理解し、駆除豫防を計るべきである。
(5) マンゴウに加害するヌルデアブラムシ *Aphis odinae* van der Goot の如きはシリア

No.

ゲアリに保護される。従つて蟻の巣を取り除くことはその駆除に必要である。

AGRICULTURAL RESEARCH
1895

リンゴコブアブラムシ

Myzus malisuctus Matsumura.

胎成雌虫　體は殆んど暗緑色を呈し、腹部背面の一對の突出物(角狀管)は長くして殆んど黑色である。觸角は體よりも甚だ短い。體長約1.45mm.

經過習性　葉裏及新芽に寄生し、葉は縱に捲かれる。大蕃殖を爲すことがある。

加害植物　タイワンリンゴ。他の植物にては發見されない。

分布　臺灣(臺中州タツタカにて發見されたのみである)。日本の本土、支那、

附記　リンゴに大害をなし、世界に廣く分布するリンゴノワタムシ(苹果綿虫) *Eriosoma lanigerum* Hausm. は本島には產しない。

モモコブアブラ

Myzus momonis Matsumura

胎生雌成虫　體は暗黄褐色、暗黄緑色、或は黄緑色を呈する。角状管は短くして太く、黒色にて、少數の短毛を有する。觸角は體よりも甚だ短い。體長約1.5–1.6mm.

經過習性　本島の山地に普通に産し、大害をなすことが多い。桃の葉はその加害によつて縦に捲かれる。平地にては從來發見されない。

加害植物　モモ。

分布　臺灣(角板山、霧社、眉溪、阿里山、等)。日本の本土、支那。

モモオホコブアブラムシ

Myzus varians Davidson.

胎生雌成虫　體は黄色又は黄綠色を呈し、有翅形は黄褐色なることがあり、角狀管の先半部は黒色にして長く、觸角は有翅形にては體と殆んど等長である。體長約1.7–2.1mm.

本種はモモコブアブラムシ *Myzus momonis* Mats.とは角狀管が長くて、毛を全く有しないことによつて區別し得る。

經過習性　本島の平地に甚だ多く、大蕃殖をなし、大害を及すことが多く、又山地にも産する。草山(臺北州)等にては一年中その蕃殖が認められる。桃の葉はその加害によつて縱に捲かれる。本種は温帶地方に於ては桃にて越冬し、夏季は桃及センニンサウ(*Clematis*)に寄生するが、本島にては一年中此等の植物に見られる。桃に寄生するものを驅除する際には、他の食草に寄生せるものをも同時に驅除するを要する。

加害植物　モモ、センニンサウ。

分布　全島、紅頭嶼、琉球、日本の本土、北アメリカ。

ペルシヤアブラムシ

Myzus persicae Sulz.

異名　モモアカアブラムシ

胎生雌成虫　緑色、又淡緑色にて、赤味を帯びることがある。角状管は細長くして、淡緑色にて先端少しく暗色を呈し、先半部は少しく膨れて居る。触角の基部は内方に瘤状に突出する。體長約2mm。

經過習性　本種は甚だ雜食性で多數の植物に加害し、蔬菜の主要害虫の一であるが、果樹にはその害は少く、モモ、ウメ等に少しく寄生することがる。本種は植物のモザイック病の病原體を傳播するものとして有名である。

加害植物　モモ、バンジロウ、ダイコン、ナスビ、ナ、カボチヤ、サツマイモ、ケシ、フキ、タバコ、タイワンレンギヨウ、タイワンケヤキ、ハコベ、キヨウチクトウ、ウメ、サクラ、タマナ、キク等。

分布　全島。琉球　日本の本土、支那、朝鮮、印度、ヨーロッパ、北アメリカ、南アメリカ等。

No.

バショウノアブラムシ

Pentalonia nigronervosa Coquillette

胎生雌成虫　赤褐色或は暗褐色を呈し、翅の脈の両側は太く、淡黒く縁取られ美しき色斑を示して居る。體長約1.0mm。バショウの葉に寄生する蚜虫は世界中唯本種あるのみである。

經過習性　バショウの捲ける新葉及芽に寄生加害し、古葉には見られない。稀に大蕃殖するもので大害はない。本種はバショウのモザイツク病を傳播すると云はれ此點に於て重要視されて居る。

加害植物　バショウ(栽培及野生共に加害す)、ゲツトウ。

分布　全島、紅頭嶼、琉球、フイリツピン、印度、スマトラ、オーストラリヤ、ハワイ、北アメリカ、南アメリカ、アフリカ等。

クワヰクビレアブラムシ

Rhopalosiphum nymphaeae Linne.

胎生雌成虫　體は黄褐色、緑褐色或は暗緑色にして、赤褐色を帯びることがあり、無翅形は卵形を呈し、角状管は細長く殆んど體と同色にて、その先の半は少しく膨大する。體長約1.7mm。

經過習性　スモモ、モモの葉及新芽に群集するが、本島にては一般に此等の果樹には甚だ少い。本島にては周年スモモ及種々なる水草(ハス、クワヰ等)に發見されるが、温帯地方にては冬季をウメ、スモモ等にて越し、春季クワヰ、ハス等の如き水草に移って夏季を此等水草上にて越し、秋季スモモ、ウメ等に歸る。水草に寄生する時は體が殆んど水面に接することが多い。

加害植物　スモモ、モモ、クワヰ、ハス、ボタンウキクサ、ガガブタ、その他水草。

分布　全島。日本の本土、朝鮮、支那、印度、ジャバ、ヨーロッパ、アフリカ、ニュウジーランド、北アメリカ、南アメリカ等。

ナシノアブラムシ

Toxoptera piricola Matsumura.

胎生雌成虫　黄緑色にて、角状管は殆んど黒色を呈し、圓筒狀である。前翅の第三斜脈は二分するのみである。體長約2.0mm. 本島に於ては梨には本種の他に尚3種の蚜虫が見られる。

經過習性　梨の葉及新芽に加害し、葉は兩緣折り曲るに至る。從來士林(臺北州)にて唯一回觀察されたることがあるのみである。

加害植物　ナシ。

分布　臺灣(士林)。日本の本土、朝鮮。

ヌルデノアブラムシ

Aphis odinae ~~van~~ der Goot.

胎生雌成虫　體は卵形で、赤褐色を呈し、角状管は甚だ短く、黒色にして、少數の毛を有することがある。觸角には細毛が多い。體長約1.8－2.0mm。

經過習性　マンゴウ、柑橘、ヌルデその他甚だ多數の植物の新葉及若芽に寄生する甚だ普通の種である。マンゴウに大蕃殖をすることがあるが、柑橘には少い。シリアゲアリに保護され一小群が被覆物にて全く包まれて居ることが少くない。

加害植物　マンゴウ、柑橘類、ヌルデ、フカノキ、トベラ、アコウ、アカギ、ナンキンハゼ、タデ、ガマズミ、その他熱帶樹木。マンゴウには本種の他にマンゴウケブカアブラムシ *Greenidea mangiferae* Takah. が寄生する。

分布　臺灣全島。琉球、日本の本土、朝鮮、支那、印度、爪哇（ジヤバ）。

リンゴノアブラシ

Aphis pomi De Geer.

胎生雌成虫　緑色、黄緑色或は黄色を呈し、角状管は長く、圓柱狀を呈し、黒色である。尾片は殆んど黒色。體長約1.8mm.

經過習性　雜食性で種々なる植物に寄生するが、本島にては一般に少く、梨の新芽及若葉に群集寄生することがある。

加害植物、ナシ、カンコノキ等。

分布　全島。殆んど全世界に分布する。

ワタノアブラムシ

Aphis gossypii Glover.

胎生雌成虫　黄緑色、黄色或は暗緑色にて、無翅形の體は卵形を呈する。角状管は圓柱状で黒色を呈し、尾片は暗色である。體長約1.3mm.

經過習性　本島に最も普通に見られる種類で、多數の植物に寄生加害する著明なる害虫であつて、柑橘、バンジロウ、ナシ等の若葉及若芽に群集して大害をすることがある。瓜類、クサギ等の葉は本種の加害によつて捲縮するに至る。

加害植物　柑橘、バンジロウ、ナシ（梨）、ビワ（枇杷）、ワタ（棉）、ナスビ（茄子）、瓜類、サトイモ（里芋）、クサギ、ホーライムラサキ、チークノキ、キリ、キクノボタン、ヤナギ（柳）、ブツソウゲ（扶桑華）、センタンクワ（千丹花）、フウノキ（楓樹）、タカノツメ（蕃荔）等。

分布　全島。世界に甚廣く分布す。

No.

ミカンノアブラムシ

Aphis citricidus Kirkaldy.

胎生雌成虫　暗褐色又は黒色を呈し、光澤あり、無翅形の體は卵形を呈し、角状管は圓枝状で黒色、尾片は黒色で太い、翅は透明で前翅の第三斜脈は２回分枝する。體長約1.5mm.

經過習性　柑橘の若葉及新枝に群集し、大發生をなすことがあり、柑橘の主要害虫の一である。本種は柑橘以外の植物には全く見られない。大蕃殖は柑橘の芽を出す頃に主として起る。

加害植物　柑橘。

分布　全島。日本の本土、琉球、支那、印度、ジヤバ（爪哇）、スマトラ、セイロン（錫蘭）、ハワイ（布哇）、アフリカ（阿弗利加）、南アメリカ（米）。

コミカンノアブラムシ

Toxoptera aurantii Boyer.

異名 *Toxoptera citrifoliae Maki.*

胎生雌成虫 暗褐色、或は黒色を呈し、光澤あり。甚だしくミカンノアブラムシ *Aphis citricidus Kirkaldy* に似て居。然し前翅の第三斜脈が2分することで區別が出來る。肉眼的に此等の2種の區別は困難である。體長約1.2mm。

經過習性 本種は本島に甚だ普通で、甚だ雜食性で種々なる樹木の新葉及新芽に群集し、柑橘に大蕃殖をすることがある。

加害植物 柑橘 ゲッキツ（月橘）、コーヒー（珈琲樹）、チヤ（茶）、クチナシ、ガマズミ、トベラ、モクタチバナ、オホバギ、ヤナギ（柳）、ウラジロエゴノキ、ヨウジユ（榕樹）、イタビカヅラ、アイギヨクシイタビ等。

分布 全島。世界の熱帯及亜熱帯に甚だ廣く分布する。

ウラジロカッコウノアブラムシ

Anuraphis helichrysi Kaltenbach.

胎生雌成虫　體は緑色で、角状管は甚だ短くして太く、黒色である。無翅形は體卵形を呈する。體長約1.3mm.

經過習性　臺湾にては主としてカッコウアザミの葉に寄生し、葉はその加害によつて縦に捲れて居る。甚だ稀にモモに寄生する。モモは本種の寄生を受ける時は縦に葉を捲く。

加害植物　モモ、カッコウアザミ、シロバナセンダングサ、タイワンヒヨドリ。

分布　臺湾(臺北、竹山)。日本の全土、朝鮮、支那、印度、ジヤバ、スマトラ、セイロン、オーストラリヤ、ヨーロッパ、北アメリカ、南アメリカ等。

モモコフキアブラムシ

Hyaloptrus arundinis Fabricius.

胎生雌成虫　體は細長く、緑色にて白粉にて被はる。角状管は小く、尾片(腹端の突起)は大きい。體長約2.3mm.

經過習性　モモ及スモモ等の葉裏及新芽に寄生し甚だ稀に大蕃殖を爲し、大害をなすことあり。本種は温帶地方にては冬季はモモ及スモモ等にて越し、春季その一部はヨシに移住して、夏季はヨシ或はモモ、スモモ等に加害し秋季ヨシに寄生せるものは全てモモ或はスモモ等に歸り、冬季にヨシに寄生することがない。然るに本島にては一年中此等の植物に見られる。本島にては一般に少く、日本の本土に於けるが如き大蕃殖をなすこと甚だ稀である。ヨシに寄生する時は葉の上面に生活し、從て強き雨のために流されて死することが多く、ヨシでは大蕃殖をすることは殊に少い。

加害植物　モモ、スモモ、ヨシ。

分布　臺灣(殆んど全島の平地)日本の本土、朝鮮、支那、ヨーロッパ、北アメリカ。

タイワンケブカアブラムシ

Greenidea formosana Maki.

胎生雌成虫　無翅形の體は太く、腹部は殆んど圓く、少しく扁平と為り、黄褐色にして、腹部背面は濃く、多數の剛毛を有する。角状管は長くして、中央部太まり、多數の剛毛を有し黒色である。體長約2.3mm。本種はマンゴウノケブカアブラムシ *Greenidea mangiferae Tokah.* に類似して居るがマンゴウ及リウガン等には決して寄生しない、又ヨウジユノケブカアブラムシ *Greenidea ficicola Tokah.* にも甚だ似て居るが、ヨウジユには寄生することがない。

経過習性　バンジロウの新葉の裏面及新芽は群集し、大蕃殖をすることが少くない。然し大害はない。

加害植物　バンジロウ、テンニンカ。

分布　全島。琉球、日本(九州)。

マンゴウノケブカアブラムシ

Greenidea mangiferae Takahashi.

胎生雌成虫　無翅形の體は太く、腹部は殆んど圓形にて少しく扁平、黄色にして、多數の剛毛を有する、角状管は長くして、黒色を呈し、多數の剛毛を装つて居る。體長約2－2.35mm。

經過習性　新芽及新葉に寄生加害するが、大蕃殖は未だ認められない。從つて大害はない。マンゴウには本種の他にヌルデノアブラムシ *Aphis odinae* van der Goot が寄生し、その種は大蕃殖をすることが多い。リウガンには從來他の蚜虫は見られない。

加害植物　マンゴウ、リウガン。

分布　臺湾（嘉義、竹崎）。

ヤマモモケブカアブラムシ

Greenidea myricae Takahashi.

胎生雌成虫　無翅の體は太く、腹部は殆んど圓形を呈し少しく扁平、綠色にて、多數の剛毛を有する。角狀管は長く、多數の剛毛を有し、先端部が暗色である。體長約2.3−2.5 mm。

經過習性　從來臺中州の高山にて發見されたのみで、重要なる害虫では無い。

加害植物　ヤマモモ。

分布　臺灣（臺中州タッタカ）。

クリノケブカアブラムシ

Paratrichosiphum tattakanum Takahashi.

胎生雌成虫　黄色を呈し美しき種にして、體背に黒斑あり。體は細長く多數の剛毛を有する。角狀管は細長く黒色にて多數の剛毛を有する。體長約2.5mm。

經過習性　新芽及新葉の裏面に群集加害し、大蕃殖をすることが多い。本種は栗のみならず、他の近縁の植物にも大蕃殖することが多い。

加害植物　タイワンクリ、タイワンヒシクリ、タイワンウラジロガシ、その他カシ類。

分布　臺湾(臺中州タツタカ、櫻ヶ峰。臺北州シキクン)。

No.

ナシノオホアブラムシ

Nippolachnus piri Matsumura.

異名　ナシミドリアブラムシ

胎生雌成虫　體の緑色の美麗なる種で、細長く、多數の細毛を有し、角狀管は甚だしく短く、觸角は體よりも甚だ短い。有翅形の腹部には暗褐色の斑紋がある。翅は透明にして長い。體長約2.8mm。

經過習性　本種は梨の葉裏に寄生し、大害を爲すことがある。日本の本土にては冬はビワの葉裏にて越し、春季梨に移つて、夏季を梨にて越し、秋季再びビワに歸る。然るに本島にては、從來ビワに寄生するもの發見されたることなく、梨或はモクコモドキに蕃殖する。

加害植物　ナシ、モクコクモドキ。日本の本土にてはビワにも寄生す。

分布　臺灣(臺北、白毛社、水社)。日本の本土。

グミノオホアブラムシ

Lachniella niitakayamensis Takahashi.

胎生雌成虫　體の背面は殆んど黒色、細長く、多數の細毛を有する。角狀管は甚だしく短く、觸角は體よりも甚だ短く、有翅形の觸角は甚だ多數の小さき感覺板を有する。翅は透明。體長2.6-3.2mm。

經過習性　枝に寄生す。タカサゴグミには本種の他に葉に寄生する蚜虫の一種あり。その種は淡緑色を呈し、體背には釘狀の毛(先端太まれる毛)多數有し、グミトゲアブラムシ *Capitophorus braggii* Gillette. と稱される。

加害植物　タカサゴグミ。

分布　臺灣特産(新高山、花蓮港銅門)。

112 ハッカノアブラムシ

Phorodon menthae Buckton

異名：*Myzus menthae* Buckton

成蟲 無翅胎生雌は黄色乃至暗緑色を呈し、甚細長い觸角を有し、體長約1.1～1.5mm 有翅の雌は、緑色を呈し、翅は透明で觸角には、多數の圓形の感覺板を散在し、體長約1.2mmある。

經過習性 ハッカの葉裏に寄生し、若葉は縮むことがある。ハッカ以外の植物では未だ発見されない。本島では臺北及び臺東で発見され、未だ大害は示さないが、ハッカの病害の病原傳播者の疑があり、今後注目すべき害蟲である。ハッカには本種以外の蚜蟲は寄生しない。

加害植物 ハッカ

分布 台灣、日本本土（北海道）、ヨーロッパ。

113　チヨマノアブラムシ

Myzus boehmeriae Takahashi

成蟲　無翅形は白色で、角狀管（腹扇）及尾片（腹端の突出）も共に白色を呈し、細長い觸角を持って居る。體長約1.7mm有翅形は淡黄を呈し、頭、觸角及中胸は黒色で、腹部背面中央には1箇の大きな黒斑がある。翅は透明。體長約1.7mm。

經過習性　チヨマの若葉の裏面に寄生し、葉は縮む。一般に少く、チヨマ以外の植物ではまだ発見されぬ。チヨマには他の蚜蟲は全く見られない。

加害植物　チヨマ

分布　台湾（ライ、羅東）。

甘蔗に加害する蚜蟲類は次の種類である。

No.

114　カンシヨノワタアブラムシ

Ceratovacuna lanigera Zehntner

無翅胎生雌蟲　體長1.78mm内外。卵形で赤褐色、體の表面に多量の白色綿状の蠟質物を被って居る。觸角は5節で頭胸部の長さよりも短い。又體の大さに比較して肢は著しく貧弱である。

有翅胎生雌蟲　體長2.1mm開張6.5mm内外。體は暗褐色、翅は無色、翅脈は緑色で前翅の前縁に暗緑色の縁紋がある。觸角は5節より成り第3節以下の各節は完全に周圍を取捲く多数の環状隆起物を持って居る。肢は比較的よく発達して居る。

幼蟲　生れた當時の幼蟲は體長0.78mm内外で體の表面に白色蠟質物の分泌が少いが発育するに從って漸次增加し遂に無翅成蟲との區別が困難になる。肢は生れた當時丈夫で歩行も活潑であるが其後體の発育と歩調を共にしないから體の割合に漸次肢が小さくなり歩行困難となるものである。

經過習性　成蟲には有翅のものと無翅のものと居るが何れも雌ばかりで雄は居ない。年中胎生で卵生することがない。幼蟲及無翅成蟲は體の表面に白色綿状の蠟質物を被

り、甘蔗の葉の裏側に群棲して汁液を吸收して居るが有翅成蟲は翅を以って飛翔することが出来る。一般に降雨に對する抵抗力が弱く、雨期には屢々洗ひ落されて蕃殖することも出来ない状態であるが乾燥期には往々大発生をすることがある。故に台湾の南部では11月頃と翌年の3,4月頃に最も多く、北部では9,10月頃に最も多い。無翅成蟲は年中居るが有翅成蟲は主として乾燥期に現れ南部では9～4月頃盛んに現れる。

　幼蟲は生れてから15～40日経つと成蟲になる。無翅成蟲は毎日1～3疋の幼蟲を産んで23～55日位も生きて居るから一生の間に産む幼蟲数は100疋内外に達するが有翅成蟲は羽化後数日を経て15疋内外の幼蟲を20～30分の間に産下し1週間内外で死んでしまふ。幼蟲は4回の脱皮をして成蟲となる。

　本種の加害は葉から汁液を吸收するばかりでなく肛門から排泄する甘露が下方の葉の表面に附着してそこに煤病を起し真黒の層を形成するから日光を遮り同化作用を妨げ成育を阻害すること夥しい。然し発生の程度は気候と甘蔗の品種によって著しく異るもので冬季気温高く夏季降雨の少い場合

No.

には発生多く、之れと反対の場合には発生が少い。品種ではローズバンブー、2725 POJ等は発生少く、36 POJ、105 POJ、161 POJ、2878 POJ等は発生が多い。

加害植物　甘蔗、ススキ。

分布　台湾全島、沖縄、日本内地、南支那、比律賓、ボルネオ、佛領印度支那、爪哇、スマトラ。

天敵　1. オホテンタウ（大瓢蟲）

Synonycha grandis THUNBERG

2. ヒメクロテンタウ

Scymnus sp.

3. トンキンアカホシテンタウ

Coelophora sausia MULSANT.

4 スギマダラメイガ

Thialella sp.

5 ナカグロヒラタアブ

Syrphus aegrotus FABRICIUS

6 タイワンオホヒラタアブ

Syrphus confrater WIEDMANN

7 カホマダラクサカゲロフ

Chrysopa boninensis OKAMOTO

8 ヒロバクサカゲロフ

Ankylopteryx octopunctata FABRICIUS

9　ヒメカゲロフ

Eumicronus sauteri ESBEN-PETERSEN

10　寄生菌

Aspergillus sp.

此の中トンキンアカホシテントウは大正13年12月石田昌人氏によって佛領印度支那から輸入されたもので現在では高雄州下後壁林及屏東附近に多数蕃殖して居る。然し大正15年爪哇から輸入された綿蚜蟲寄生峰 *Encarsia flavoscutellum* ZEHNTNER・は遂に蕃殖するに至らなかった。これは恐らく台湾の気候が彼等の蕃殖に不適なためであらう。

駆除豫防法

1.　綿蚜蟲の発生初期である9,10月又2,3月頃絶えず蔗園を巡視し綿蚜蟲の小郡(コロニー)を発見次第指頭で潰殺すること。

2.　15,11月又3,4月頃は綿蚜蟲の発生の旺盛な時期であるから被害は既に進んで居る筈である。依って此頃の被害葉は切取って焼却するか或は穴を掘って埋め上から土を被せて壓殺すること。

3、　大発生に際して被害葉の切取り困難の場合には、硫酸ニコチン(40%)の1200〜1500倍液、或はピレトリン剤「ハルク」の ~~1200~~

1,200～1,500倍液1斗につき粉末石鹸20匁を溶したものを噴霧器で撒布すること。但し此の際粉末石鹸を加へないものは効果殆んど無し。これは體の表面に分泌して居る多量の白色蠟質物によって液が體の表面にまで滲透しないためである。尚前記の藥劑又噴霧器の無い場合には魚藤或はデリスの浸出液に粉末石鹸を加へ、之に襤褸を浸して綿蚜蟲を拭きとること。

4. 天敵大瓢蟲を人工的に多数蓄殖して綿蚜蟲の発生地に放飼すること。

ムギノヒゲナガアブラムシ

Macrosiphum granarium Kirby.

胎生雌成虫　体は緑色で暗赤褐色を帯ぶることが多い。触角は甚細長く、体長よりも長く或はそれと大差はない。腹部背面には1対の甚長い圓柱状の突出物(角状管)があって黒色を呈して居る。腹部末端の突起(尾片)は長く、淡色を呈する。肢は細長く、翅は透明である。体長約2.5mm。

經過習性　本種は日本の本土及諸外國に於ては、麥の大害虫の一として知られて居るが、本島に於ては從來甚少く、重要な害虫ではない。種々な禾本科雑草の茎及穗に寄生し、頭を下方に向けて居るのを普通とする。稀に稻に寄生するが、大蕃殖はしない。周年單性の胎生を行ひ、雄は全く現はれることなく、雌には有翅と無翅との2形があることは、他の大部分の蚜虫と同樣である。甘蔗及ススキに寄生する場合は花に生活して居る。

加害植物　ムギ類、稻、甘蔗、ススキ、スズメノテッポウ、その他禾本科雑草。

分布　台湾(全島)。世界中に分布す。

トウモロコシノアブラムシ

Aphis maidis Fitch.

胎生雌成虫 暗緑色を呈し、無翅形の体は細長い卵形である。觸角は明に体よりも短く、6節より成り、蓄明なもの多数を有しない。角状管は短く、太く、黒色である。尾片は黒色を呈し、肢も黒色である。翅は全く透明である。体長約2.3mm。

經過習性 本種は種々な禾本科植物に寄生し、トウモロコシ等に大蕃殖をすることがあり、莖、穗及葉に群集して居る。然し稻には甚稀に少しく寄生することがあるのみである。ジャバでは甘蔗に寄生すると云はれ、我國では奄美大島で甘蔗に寄生することがあるが、本島に於ては野外では甘蔗には發見されない。

周年胎生で生殖を續け、雄は現はれることなく、雌には有翅と無翅との2形があるが、前者は少ない。

加害植物 トウモロコシ、モロコシ、キビ、アハ、ムギ、稻、禾本科雜草（但しススキには寄生しない）。

分布 台湾（全島）。世界に甚廣く分布す。

日本の本土、及諸外國ではムギノクビレ

No.

アブラムシ *Rhopalosiphum prunifoliae* Fitch が麦の大害虫として知られて居る。此種は本島にも産するが、甚少く、現在應用上重要ではない。觸角は5―6節より成り、多數の長細毛を有し、その末節先端の鞭状部は、その基部の太い部分に比べて甚長いこと、及無翅形の体は細長くないこと等によつてトウモロコシノアブラムシと区別し得る。

No.

カンショノキアブラムシ

Aphis sacchari Zehntner.

異名: ムラサキアブラムシ
　　　ススキノアブラムシ

胎生雌成虫　体は白色を帯びた淡黄色、或は紫色を呈し、無翅形の体は卵形を呈する。触角は体よりも短く、5—6節より成り、角状管は甚短く、黒色を呈する。翅は脈の両側が淡く着色せられ、美しい。体長約1.5—2mm。

経過習性　ススキに周年見られ、その葉の基部に小群をなして群集寄生し、シリアゲアリに保護されることが多い。モロコシ、キビ、トウモロコシ等の葉裏に群集し、大蕃殖をすることが少くない。殊にモロコシに多く、大蕃殖をする時は出穂を阻害し、大害をなすことがある。周年単性で胎生を行ひ、雄は全く見られない。雌には翅を有するものと、之を欠くものとがある。野生の禾本科植物にも寄生するから、その除去は駆除上重要である。甘蔗にも加害するので此名がある。

加害植物　モロコシ、キビ、トウモロコシ、ススキ、甘蔗等。

分布　台湾(全島)、紅頭嶼、澎湖島。琉球、日本本土、比律賓、印度、ジヤバ、ハワイ、アフリカ、南米。

TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

イネノネアブラムシ

Tetraneura hirsuta Baker.

無翅雌成虫　体は色淡く、殆んど球状を呈する。觸角及肢は甚短く、跗節は1節より成り、眼は甚だ小い。角状管は殆んど見られない。腹部両側には長い剛毛がある。

経過習性　陸稲、その他の禾本科植物の根に周年寄生し、稀に少數の有翅形が現はれて、他の株へ移る。大蕃殖をする時は加害は大いが、一般に甚だ少い。*Tetraneura* に屬する蚜虫は、日本の本土及その他の温帯地方では、夏は禾本科植物の根に寄生するが、秋には有翅形が生じて、楡に移住して雄と卵生雌とを産する。その交尾して産下せる卵は、楡で越冬し、春に卵より孵化した幼虫は、楡の葉に虫癭を作り、その虫癭より飛び出す有翅形が、再び禾本科植物に移住する。即ち此類は温帯地方では複雑な生活を行ひ、禾本科植物には夏季に寄生するのみである。然るに本島にては周年禾本科の根で胎生を続け、楡に寄生することは全くない。有翅形は甚少く、体は暗色を呈し、觸角には環状の多數の横帯(感覺器)を有して居る。

駆除豫防法　輪作をすること。畑中及その附近の禾本科の雑草を根と共に採り除くこと。切株を取り除いて燒却し、或は水中に投ずること。

加害植物　陸稲、甘蔗、ススキ、スズメノテツポウ、その他禾本科植物。

分布　台湾(全島)。日本の本土、支那、印度、比島、スマトラ、亜弗利加。

本島の禾本科植物の根には、本種の他に尚種々なアブラムシ類が生活して居る。是等は現在までには稲、麦等の根では発見されたことはないが、今後是等に寄生することは起り得ると思はれる。

マメノアブラムシ　*Aphis labürni Kaltenbach.*

異名; *Aphis medicaginis Koch.*

胎生雌成虫　体は黒色乃至暗緑褐色或は暗赤褐色を呈し、無翅形は普通光澤を有す。角状管は圓柱状を呈し、長く、黒色である。尾片は黒い。有翅形は觸角第3節に數個の圓形の感覺板を一列し、翅は透明である。体長約2mm。

經過習性　豆類に普通で、殊にソラマメ、キマメ等に多く、1—2月頃殊に大蕃殖をする。周年單性で胎生し、雄は全く見られない。葉、莖、莢等に群集して居る。雌には翅を有するものと、之を缺くものとがあり、有翅形は普通である。

加害植物　豆類、クサネム、レンゲ。

分布　台湾(全島)。世界に甚廣く分布する。